

**Works
Report**

2021

**高校の就職指導・
キャリア教育に関する調査
報告書**

■目次

- 1) 今年度の就職状況の見通し
- 2) 就職指導・求人開拓
- 3) キャリア教育の内容
- 4) キャリア教育の目的・実現度合い
- 5) 就職指導で重視すること・課題
- 6) 学校で働くことをどのように伝えているか？
- 7) 行政支援の活用状況
- 8) 既卒者に対する就職支援
- 9) 外部との連携状況
- 10) 望ましい外部連携

■調査概要

調査期間：2020年9月4日～9月28日（10月8日到着分までを集計対象とする）

調査方法：質問紙による郵送法

調査対象：全国の全日制高校（普通科高校/工業高校/商業高校/総合高校）、1校における就職者数が5名以上の高校の校長2,387名

集計対象校：317名（回収率13%）

調査協力：リクルート『キャリアガイダンス』編集部

※以降の分析では、必要に応じて、普通科、専門高校（工業高校・商業高校）、総合高校+その他の高校の別で「学校タイプ」として、分析している

1) 今年度の就職状況の見通し

- ・指定校求人について、普通科では「減少なし」が41.1%だが、専門高校では「減少なし」は25.4%で、減少した場合の見通しは1~3割の学校が最も多い。
- ・未内定者が出た場合の見通しとして最も多いのは、「進学への進路変更」次に「自己開拓」であった。学校タイプによる違いは見られない。

- ・昨年度と比較した場合の指定校求人の見通し(9月時点)

減少すると回答、その割合

	なし	1~3割	4~6割	7割以上
普通	41.1%	49.7%	6.9%	2.3%
専門	25.4%	74.6%	0.0%	0.0%
総合他	27.9%	63.9%	6.6%	1.6%

増加すると回答、その割合

	なし	1~3割
普通	94.9%	5.1%
専門	95.7%	4.3%
総合他	98.5%	1.5%

- ・今年度未内定者が出た場合の見通し

	就職をあきらめる者 が発生・増加する	縁故や自己開拓な ど、学校紹介とは違う 方法で就職先を探す 生徒が発生・増加す る	専門学校や大学等進 学へ進路変更する者 が発生・増加する	無職・フリーターにな る者が発生・増加す る
普通	15.2%	44.9%	51.7%	29.2%
専門	12.9%	35.7%	51.4%	15.7%
総合他	24.6%	53.8%	56.9%	32.3%

2) 就職指導・求人開拓

- ・職場見学の写真は普通科で平均1.68社、面接1社目での内定は、どの学校タイプでも8割超。
- ・学内選抜は、専門高校では約8割が実施。普通科での実施は約4割で、成績、無遅刻無欠席、部活動の順に選抜の実施率が高い。
- ・求人開拓方法は、専門高校では企業訪問が9割を超えているが、普通科では合同説明会などへの参加が62.9%で、もっとも多い。

- ・職場見学の社数、最も多くの企業面接を受けた生徒が受けた社数、1社目の面接で内定が出る生徒の割合

	職場見学 社数 (社)	最大面接 社数 (社)	1社目で内 定する割合 (割)
普通	1.68	2.29	8.41
専門	1.43	2.33	8.88
総合他	1.60	2.73	8.40

- ・指定校求人における学内選抜の有無

	おこなった	おこなって ない
普通	40.7%	59.3%
専門	80.6%	19.4%
総合他	72.1%	27.9%

- ・学内選抜の基準(以下に「はい」と回答した割合)

	成績	無遅刻無欠 席	部活動・生徒 会
普通	40.4%	40.4%	35.4%
専門	74.3%	62.9%	54.3%
総合他	66.2%	66.2%	56.9%

- ・求人開拓(以下に「はい」と回答した割合)

	教員が企業に 連絡・訪問す る	行政や商工会 が主催する合 同説明会など に参加する	民間の就職支 援事業者を活 用する	学校と付き合 いのあるキャ リアコンサルタ ント等外部サ ポーターの開 拓・紹介を依 頼する	求人開拓は 行っていない・ 必要はない
普通	56.2%	62.9%	14.0%	11.8%	18.0%
専門	91.4%	60.0%	14.3%	14.3%	7.1%
総合他	81.5%	60.0%	15.4%	12.3%	9.2%

3) キャリア教育の内容

- ・専門高校では、模擬就職面接・職場体験やインターンシップ・企業見学や職場見学が最も実施されている。普通科および総合学科他では、模擬就職面接の次に実施されているのは企業見学・職場見学であり、専門高校のほうがより体験的な内容で実施されている。
- ・学校タイプによって個別面談で伝えている内容が異なる。普通科および総合学科他では、「自分のやりたいこと・向いていることを探しなさい」、専門高校では「自分のやりたいことにあった仕事選びをしなさい」だった。専門高校では「やりたいこと」がある程度明確であることが前提となった個別面談がおこなわれていると推察される。

・実施しているキャリア教育・就職指導（以下に「はい」と回答した割合）

	社会人講師の講話	卒業生の講話や懇親会	企業見学・職場見学	職業体験・インターンシップ	個性や適性（向き・不向き）を考える授業	将来の進路・職業を設計・計画することを目的とした授業	勤労観・職業観（なぜ働くのか等）について考える授業	労働法や働く人の権利や義務など、仕事のルールを学ぶ授業
普通	74.9%	64.0%	89.3%	70.5%	76.7%	86.8%	68.8%	48.8%
専門	88.4%	85.5%	98.6%	98.6%	72.1%	83.8%	82.4%	64.2%
総合他	95.2%	81.5%	98.5%	93.8%	82.8%	90.6%	87.7%	69.2%

	企業提案や実習を伴う授業	保護者向けガイダンス	就職した後の収入・支出やマネープランの授業（金融教育等）	資格取得・奨励	ボランティア活動やそれに関する授業	アルバイト指導	模擬就職面接
普通	13.6%	62.4%	43.0%	78.0%	60.7%	21.5%	94.4%
専門	66.2%	80.3%	47.8%	97.1%	55.9%	36.4%	98.6%
総合他	54.8%	70.8%	60.3%	95.4%	69.8%	35.5%	98.5%

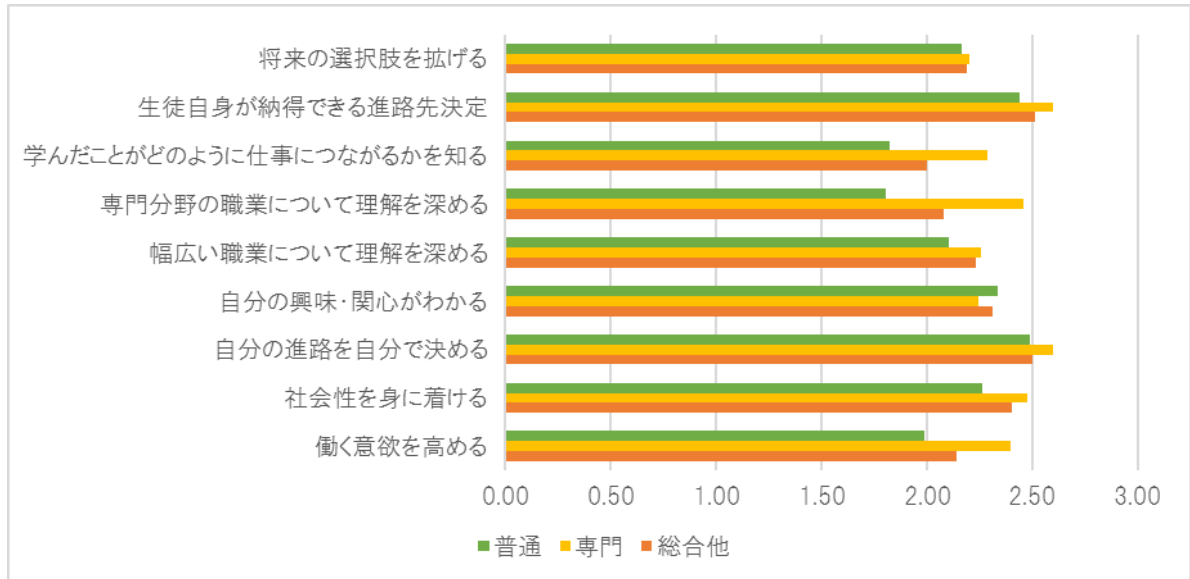
・個別の面談でもっとも伝えている事柄

	1. 自分のやりたいことにあった仕事選びをしなさい	2. 自分の進路なのだから、自分で決めなさい	3. 仕事なのだから辛いことでも我慢しなさい	4. 仕事なのだから楽しんでできることを見つけなさい	5. 将来のことは、就職先を見つけてから考えなさい	6. 自分のやりたいこと・向いていることを探しなさい
普通	27.4%	25.6%	3.7%	2.4%	1.8%	38.4%
専門	43.3%	20.9%	7.5%	0.0%	0.0%	28.4%
総合他	27.4%	24.2%	1.6%	1.6%	0.0%	45.2%

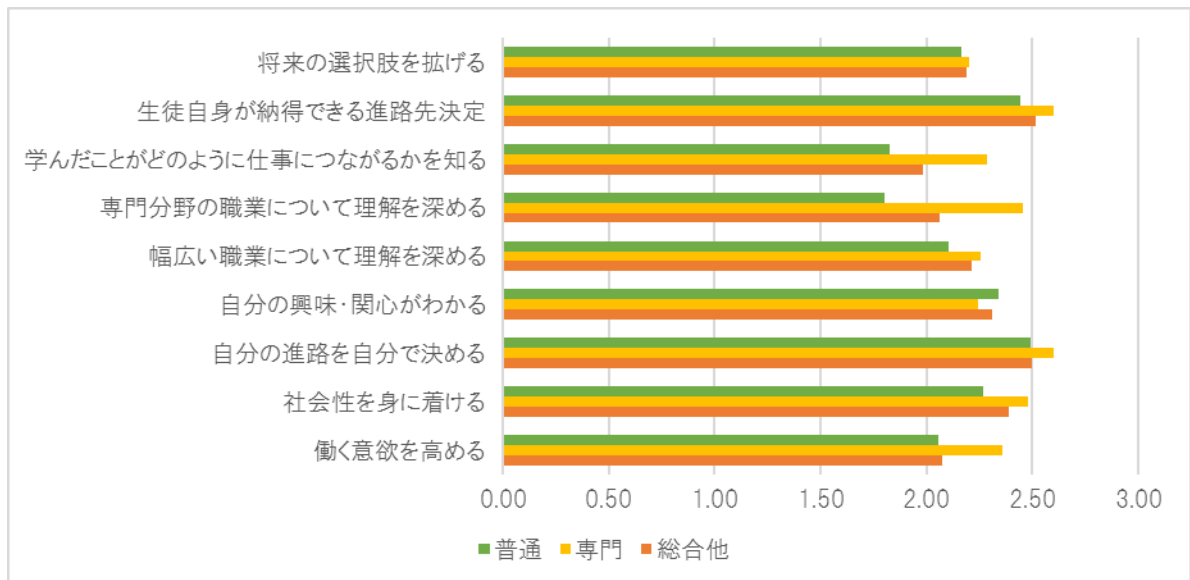
4) キャリア教育の目的・実現度合い

- ・キャリア教育について目的別にその実施状況を尋ねた。「かなり実施している」を3点、「少し実施している」を2点、「実施していない」を1点とし、平均点を算出したところ、全体的に専門高校の平均値が高く、普通科のほうが平均点が高いものは「自分の興味関心がわかる」ことを目的としたキャリア教育である。
- ・どの学校タイプにおいても「生徒自身が納得できる進路先決定」や「自分の進路を自分で決める」ことを目的としたキャリア教育が実施されている。
- ・実現状況についても、「生徒自身の納得」「進路の自己決定」のスコアが高い。

・目的別キャリア教育の実施状況



・目的別キャリア教育の実現状況



5) 就職指導で重視すること・課題

- ・生徒の就職先決定においては、「生徒のやりたいこととの一致」がもっとも重視されており、特に専門高校ではその比率が高い。その一方で、会社のビジョンや経営戦略への共感については「重視しない」との回答も多くみられている。
- ・生徒の就職を円滑に進める上での障壁を尋ねたところ、「保護者と生徒の進路希望の不一致」のスコアが高い。

- ・生徒の就職先決定において指導上もっとも重視していること

	生徒自身の「やりたいこと」と一致していること	生徒の「向いていること」と一致していること	会社のビジョンや経営戦略に共感できること	組織の社風が良いと思えること	世間的に名前の知られた会社であること	労働条件や福利厚生がよいこと	無回答
普通	44.4%	29.2%	1.7%	3.9%	0.0%	12.9%	7.9%
専門	54.3%	24.3%	0.0%	5.7%	1.4%	7.1%	7.1%
総合他	41.5%	29.2%	0.0%	1.5%	0.0%	16.9%	10.8%

- ・生徒の就職先決定において「重視していない」こと

	生徒自身の「やりたいこと」と一致していること	生徒の「向いていること」と一致していること	会社のビジョンや経営戦略に共感できること	組織の社風が良いと思えること	世間的に名前の知られた会社であること	労働条件や福利厚生がよいこと
普通	4.0%	2.9%	30.3%	16.0%	76.4%	7.4%
専門	2.9%	4.3%	34.3%	15.7%	60.0%	2.9%
総合他	0.0%	3.1%	33.8%	15.6%	81.5%	6.2%

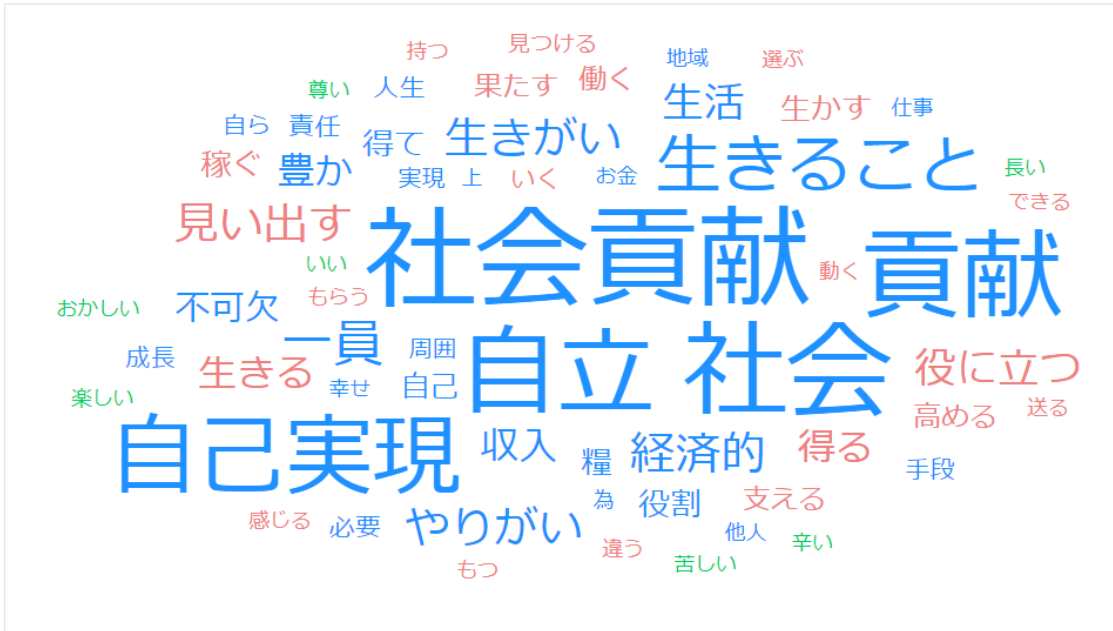
- ・生徒の就職を円滑に進める上での障壁

まったくそう思わないを1点、かなりそう思うを5点とした平均値

	生徒の意欲や態度など、生徒に関すること	生徒の家庭環境や家庭の経済状況に関すること	保護者の進路希望と生徒の進路希望の不一致	知識を持った教員の不足など学校の組織体制に関すること	就職先企業に関すること	高校卒就職に関する国のルールや仕組みそのものに関すること
普通	3.55	3.52	3.60	3.09	2.81	2.75
専門	3.57	3.43	3.75	3.04	2.78	2.74
総合他	3.83	3.81	4.02	3.32	3.05	2.94

6) 学校で働くことをどのように伝えているか？／組織支援体制

- ・自由記述の回答をテキストマイニングで分析した。その結果、最も多いのは「社会貢献」または「社会に貢献すること」。次に自己実現や自身の生きがいであること、次に経済的に自立することや生活の糧を得ることといったキーワードが表出した。
- ・学校タイプによる違いは見られなかった。



- ・組織の運営体制を尋ね、学校タイプ間で比較した。専門高校では「学校教育目標への位置づけ」「実践成果を踏まえた年間活動計画の見直し」「学年間のキャリア教育のつながり」のスコアが高い。
- ・総合他では「教科活動との連携」「学年や教科を超えた連携」「地域人材の積極活用」「保護者との解決行動」のスコアが高い。

	普通	専門	総合他
生徒の実態やニーズを具体的に把握(情報収集、測定、データ化)して、学校として取り組むべき生徒のキャリア発達上の課題を明確にしている。	3.33	3.34	3.22
キャリア教育は、学校教育目標や教育方針の一部もしくは全体に位置づけられている。	4.02	4.29	4.20
キャリア教育の実践成果と課題をふまえて、年間活動計画の見直しをおこなっている	3.70	3.80	3.72
キャリア教育として実施されている活動と、教科学習を関連づけている	3.02	3.61	3.68
学年間のキャリア教育はつながりを持って実施されている	3.60	3.83	3.74
キャリア教育において、学年や教科を超えた連携がおこなわれている	3.20	3.54	3.60
キャリア教育や就職指導において、地域の人材や素材を積極的に活用している	3.37	3.61	3.89
普段の教育活動に、図書館・博物館・科学館等を積極的に活用している	2.57	2.44	2.74
学校の教育の成果と課題を保護者・地域と共有し、共に解決行動を行う機会がある	2.98	3.21	3.35
教員以外のスタッフ(学校図書館指導員・理科支援員・教育支援員・スクールカウンセラー)と連携協力している	3.14	3.29	3.51

7) 行政支援の活用状況

- ・行政支援でもっとも活用されているのは、「未内定者に対するハローワークの支援」で、どの学校タイプでも最も多く活用されている。次いで多いのは、行政主催の合同説明会であった。
- ・高卒就職情報webサービスの利用については、学校タイプで利用状況が異なっている。普通科では「生徒が学校内でみられるようにしている」がもっとも多いが、専門高校では「教師のみがみている」がもっとも多い

・活用している行政の支援（以下に「はい」と回答した割合）

	1. 未内定者に対するハローワークの支援	2. 就職先開拓の支援	3. 授業やHRの進路指導におけるサポート	4. インターンシップの受け入れ調整	5. 行政主催の合同説明会への参加	6. 就職支援相談員（キャリアアドバイザー）の派遣
普通	76.4%	17.4%	34.8%	25.3%	65.2%	36.5%
専門	72.9%	25.7%	55.7%	37.1%	58.6%	37.1%
総合他	75.4%	29.2%	46.2%	43.1%	53.8%	43.1%

・高卒就職情報web提供サービスの利用状況

	1. 教師のみが見ている	2. 生徒が学校内で見られるようにしている	3. 生徒・保護者が学校内外を問わず見られるようにしている	4. 利用していない
普通		39.8%	42.7%	8.2%
専門		61.4%	21.4%	10.0%
総合他		57.4%	31.1%	4.9%

8) 既卒者に対する就職支援

- ・未内定者・進路未定の既卒者に対して、継続的な支援の状況を尋ねたところ、専門高校では84.3%、総合他では75.4%、普通科では66.3%の学校が就職斡旋を継続している。
- ・追指導の方法としては、いずれの高校タイプにおいても、教員の企業訪問が行われていた。中でも専門高校・総合他では6割を超える高校が企業訪問をおこない、卒業後の状況確認をおこなっている。
- ・3年以内の離職状況については、約半数の高校が「把握していない」と回答しており、総合他では58.5%が「把握している」としている。

・未内定者・進路未定の既卒者に対するこれまでの学校としての指導方針
(以下に「はい」と回答した割合)

	生徒の満足する職場が見つかるまで就職先を斡旋する	希望を変更するよう勧めて、可能性が高い就職先を斡旋する	文書応募や自由応募で探すように勧める	進路変更(おもに専修・各種学校)を勧める	進路変更(おもに大学)を勧める	正社員にこだわらないようにそれ以外の雇用形態を勧める	進路指導部では策がないので、生徒や保護者の判断に任せる
普通	66.3%	42.7%	6.7%	20.8%	6.7%	5.1%	8.4%
専門	84.3%	47.1%	8.6%	11.4%	8.6%	0.0%	4.3%
総合他	75.4%	40.0%	9.2%	13.8%	1.5%	1.5%	9.2%

・既卒者への追指導の方法

	1. 卒業生への追跡アンケート	2. 就職した企業へのアンケート	3. 就職した企業への教員の訪問	4. 卒業生による在校生への講演依頼などの機会を使った会話	5. 実施していないし、予定もない	6. 実施していないが、実施したい
普通	11.2%	4.5%	38.8%	27.0%	27.5%	12.4%
専門	8.6%	17.1%	60.0%	51.4%	17.1%	1.4%
総合他	10.8%	9.2%	61.5%	46.2%	12.3%	12.3%

・3年以内の離職状況の把握

	把握している	把握していない
普通	45.5%	53.4%
専門	50.0%	50.0%
総合他	58.5%	40.0%

9) 外部との連携状況

- ・他組織との連携状況では、ハローワークなどとの連携がいずれの高校タイプでも8割超
- ・専門高校、総合他では、企業との連携が8割を超えるが、普通科では6割弱である
- ・外部連携を進める理由は、学校だけでは難しい「職場や働くことのリアルなイメージを持たせたい」「多様な人から学ばせたい」といった互いの強みを生かした連携もあれば、「就職指導のための時間や知識、スキルの不足を埋めてほしい」といった、学校だけでは対応できない内容についての支援を求める声もあった。

・他組織との連携状況
 (「連携している」と回答した学校の比率)

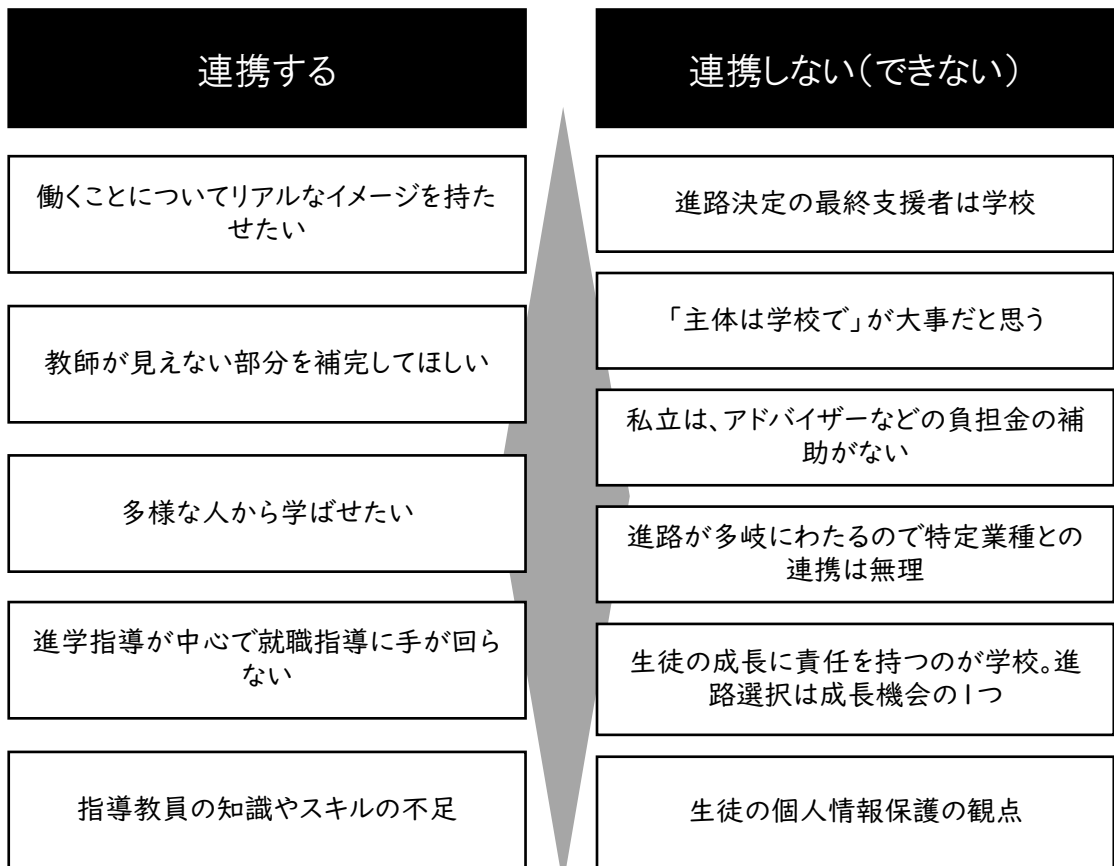
	1. 中学、大学、短大、専門職大学、研究機関など「学校」	2. 家庭や保護者	3. 企業や事業所、NPO	4. 公共職業安定所(ハローワーク)、ジョブカフェ、地域若者サポートステーション	5. キャリア教育コーディネーター	6. その他の連携先
普通	51.7%	38.8%	59.0%	84.8%	16.9%	6.2%
専門	60.0%	44.3%	81.4%	84.3%	22.9%	4.3%
総合他	58.5%	50.8%	83.1%	92.3%	24.6%	6.2%

その他の連携先としてあがっていたのは以下の通り

地域コーディネーター(町職員)、進路関係事業者、商工会、青年会議所、学内のキャリアコンサルタント、地域の雇用対策協議会

・外部連携に対する考え方

外部機関との連携を進めたい理由、連携しない(できない)理由を自由記述で尋ねたところ、以下のような理由が挙げられている

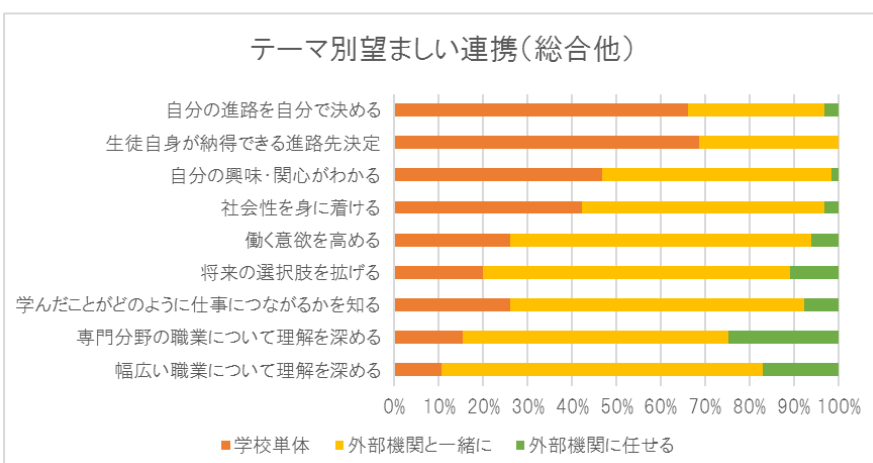
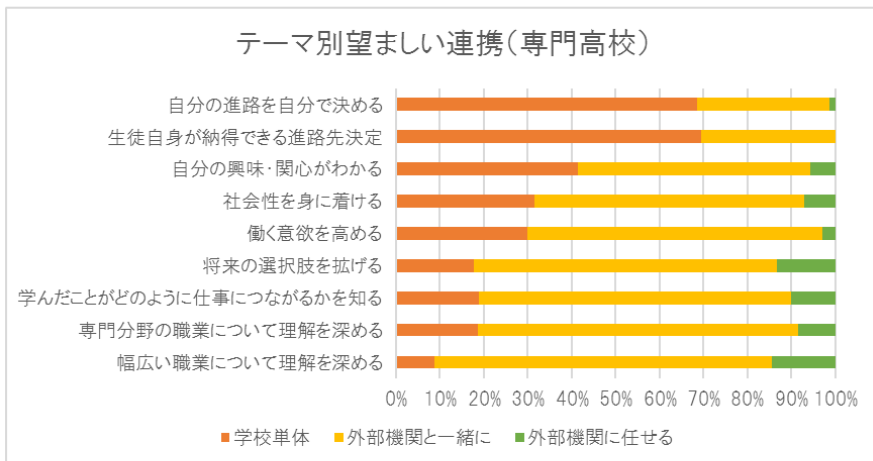
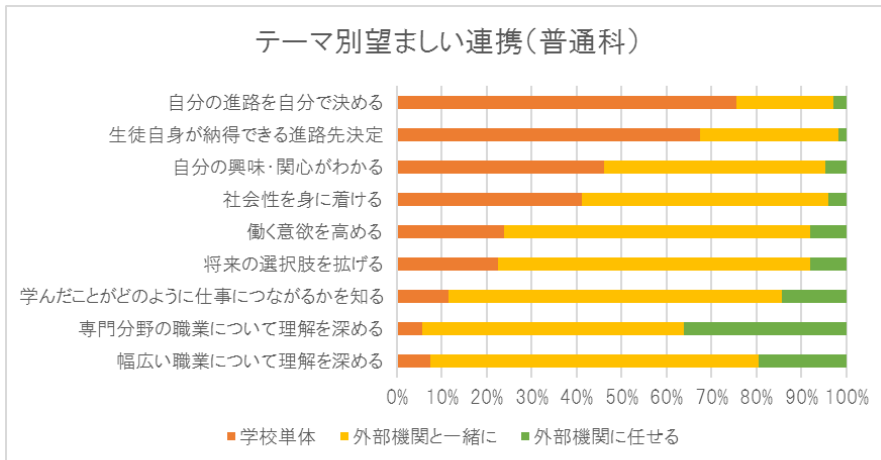


10) 望ましい外部連携

- ・キャリア教育・就職指導でおこなわれているテーマ別に望ましい連携の在り様について尋ねたところ、学校種によって望ましい外部連携の在り方が異なっていた。
- ・「進路決定」「興味関心がわかる」といった、生徒自身のことは主に学校での指導を望んでいる。
- ・「社会性」「働く意欲」「選択肢の拡大」といった生徒の仕事観に関するテーマについては外部との連携を望んでいる傾向がある。
- ・「学んだことと仕事のつながり」「専門分野についての理解」「職業についての理解」など、主に仕事のことについては、「外部の協力機関に任せたい」とする傾向がみられた。

・外部連携に対する考え方

以下それぞれの項目について、「主に学校や先生の指導で取り組んだほうがよい」、「外部の協力機関と一緒にやりたい」、「主に外部の協力機関に任せたい」の3つの回答から選択



Works Report 2021

『高校の就職指導・キャリア教育に関する調査報告書』

辰巳哲子 リクルートワークス研究所 主任研究員

岡田苑子 アシスタント

これからの時代の「高校卒就職システム」を考える プロジェクト

<https://www.works-i.com/project/koukousotsu.html>

プロジェクトリーダー 古屋星斗 リクルートワークス研究所 研究員

プロジェクトメンバー 坂本貴志 リクルートワークス研究所 研究員/アナリスト

プロジェクトメンバー 茂木洋之 リクルートワークス研究所 研究員/アナリスト

株式会社リクルートリクルートワークス研究所

<https://www.works-i.com/>

〒104-8001 東京都中央区銀座8-4-17 リクルートGINZA8ビル

2021年1月発行

© Recruit Co.Ltd. ALL rights reserved.